

## 高松高等裁判所長官着任記者会見要旨

### 1 冒頭あいさつ（長官就任の抱負）

8月30日付で高松高等裁判所長官を拝命した。

裁判所の使命は、地域の実情を踏まえ、それぞれのニーズに応じて、司法サービスを適切に提供し、円滑な裁判を実現していくことにあると思う。その意味で、各管内地家裁、支部、簡裁を含めて、実情を把握して、より良い裁判を実現して、裁判所の使命を果たすために少しでも尽力していきたい。

### 2 代表質問（幹事社：毎日新聞社）

#### (1) 高松の印象

言葉の音、イントネーションが柔らかく、また、人と接する時の対応が柔らかい、やさしいという印象を持っている。

#### (2) 裁判官を職業として選んだ理由

私は、社会を運営していく上ではルールが非常に重要であると考えている。ルールが守られていることによって、個人が安心をして生活することができる。場合によっては、ルールが何であるかについて対立するときがあり、その判断するのが裁判官の仕事であると考えてこの仕事を選んだ。責任は重いが、やりがいでもある。

#### (3) 今までに関与した裁判で、特に印象深い事件

個別の事件というよりも、全国で初めての裁判員裁判を私が裁判官として担当したということが印象深い。

#### (4) 人生観（座右の銘など）

謙虚、それから誠実、最後に思いやりを大事にして生きてきた。

#### (5) 趣味

これまで色々なことを幅広くやってきた。現在の趣味は、夫婦でやっている社交ダンス、旅行、おいしい日本酒を見つけることなどである。

(6) 家族構成

妻と、息子が二人と、娘が一人である。

3 個別質問（主要な質問）

- (1) 来年、裁判員裁判が10周年を迎えるということで、裁判員裁判の評価や懸念事項を教えてください。( )

裁判員制度の運用については、おおむね順調に行われていると感じているが、少し参加意欲が下がってきていると言われていることに若干の懸念を感じている。裁判所としては、裁判員裁判の意義や運営状況を情報発信して国民の理解が得られるように努力していかなければならない。

- (2) 長官の印象として、四国で求められる司法サービスで、裁判以外で該当すると考えているものがあれば教えてほしい。( )

着任直後であり、高松高裁の管内の状況把握は不十分ではあるが、一番強くニーズが出ているのは家事関係の事件処理がニーズに応えられているかという点ではないか。家事関係でいう調停は、判決や決定とは違い、話し合う中で決めるものである。当事者が見えていないことを裁判所がアドバイスする中で結論を当事者に見つけてもらう。裁判所の役割として、これからも充実させていかなければならないと考えている。

- (3) 高等裁判所というのは国民からは遠い存在に思うが、四国の地域の方々にとって、どのような裁判所にしたいか。( )

高裁は一審で判断したことについて問題がないかどうかを判断するところなので、直接国民と関わることは少ないが、第一線にいる地・家・簡裁が裁判所の使命を果たしていくための裏方として地域のニーズに応えていきたい。

- (4) 旅行が趣味とのことだが、四国、香川の中で行ってみたいところはあるか。( )

行きたい場所はたくさんある。今年計画していたのは、佐田岬の先端まで行く計画をしていた。普通は行かないようなところも行ってみたい。

(5) 出身地は北海道のどちらか。( )

夕張市である。

(更問) 高校生までそこで生活していたということか。

(答) そのとおりである。

(更問) 本日、北海道に地震があり、大きな被害があったが、何かコメントをしてほしい。

(答) まだ正確な情報が入っていないが、私の親族が札幌、夕張にいたので、あまり被害がなければよいと思っている。

(6) 確認だが、松山への旅行は8月に計画をしていたが、異動が決まり、旅行は結局していないということか。( )

そうである。

(更問) ただ、出張では四国四県に来たことはあるということか。

(答) そうである。